



未来の先生展
2017

こたえのない時代を生きる教育と いま求められる教員の資質・能力とは？

パネルディスカッション形式

開催日時 2017年 8月 26日(土) 16:00-18:00

場 所 武蔵野大学有明キャンパス 3号館 3F

司会者 佐藤徳紀

内容

教育と学びは、未来を創る営みです。AIの登場をはじめとする技術革新は私たちの生活を大きく変化させると言われています。そして、国際政治においては新たな秩序が生まれつつあるなど、私たちの社会・未来は大きく変わってきています。そのような中において、教育と学びの果たす役割はとて大きいと言えます。そこで、これからの教育・先生の姿とは何かについて、現場の教師・管理職・研究者の視点を混ぜつつ、参加者の皆さんと共に考えていきます。

主な内容：

- ・トークセッション① テーマ「こたえのない時代を生き抜く教育には何が欠かせないか」
- ・トークセッション② テーマ「いま求められる教員の資質・能力とは何か」
- ・トークセッション③ テーマ「みらいの先生がいる教室とは、どんな学び場か」
- ・オーディエンスのインタラクション ペアワーク「これからの時代に必要な教育とは」
- ・パネラーへの質疑

ここに注目！

今回は、学校現場の先生そして管理職、研究者という複合的な立場でお話を展開しつつ、適宜みなさんとのインタラクションを行います。未来の先生・教育・学びの姿を複合的に素描し、あぶりだしていきます。

登壇者の話や今回の未来の先生展での学び、普段とみなさん自身の取り組みをうまくまとめていければと思っています。

登壇者



石川 一郎

香里ヌヴェール学院 学院長
21世紀型教育機構 理事

1962年東京都出身、暁星学園に小学校4年生から9年間学び、85年早稲田大学教育学部社会科地理歴史専修卒。暁星国際学園、ロサンゼルスインターナショナルスクールなどで教鞭を取る。2006年4月かえつ有明中高等学校教頭、15年4月より今春まで、かえつ有明中・高等学校校長。「アクティブ・ラーニング」をかえつ有明中中で実践、2011年に教師の研究組織「21世紀の教育を考える会」を立ち上げ、幹事を務める。2月に2020年の大学入試改革で学び方をどう変えるべきかを明らかにする『2020年の大学入試問題』（現代新書）を上梓した。



小泉 和義

ベネッセ教育総合研究所 副所長

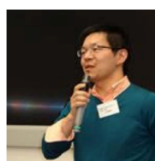
福武書店（現ベネッセコーポレーション）入社後、高校の進研模試営業を担当した後、研究部門に異動。教育分野に関する調査研究、サイバー子ども学研究所のチャイルドリサーチネット（CRN）の運営に関わる。その後、学校向け情報誌進研ニュース（VIEW21の前身）中学版の編集担当、VIEW21（小学版、中学版、高校版）副編集長、VIEW21（小学版、中学版、高校版）編集長、情報編集室長を歴任し、現在に至る。任意団体次世代の教育を考える会 幹事。



藤牧 朗

目黒学院中学・高等学校 教諭

慶應義塾大学商学部を卒業後、警視庁職員、塾経営などを経て、東京大学医学部に入学。「子どもたちが社会に出て困らない力を育みたい」と卒業後は中学校・高校の教員に。社会科や理科をはじめ10種類の教員免許をもつ。『Career Guidance』（リクルート）などで授業実践が紹介されている。『わかる授業の指導案80』（芸術新聞社）、『アクティブラーニングに導くKP法実践』（みくに出版）にも執筆。現在、目黒学院中学・高等学校で進学・学習指導部主任として、自身アクティブ・ラーナーとしてさまざまなアクティブラーニング型授業を推進中。



佐藤 徳紀

一般社団法人Teacher's Lab.
代表理事（副理事長）

2012年（株）ベネッセコーポレーションに入社後、中学生向けの理科教科の教材開発を担当。2016年6月から初等中等領域の調査を担当後、情報企画室の研究員に着任。専門は電気工学、エネルギー・環境教育、理科教育、博士（工学）。担当した主な調査は、「第6回学習指導基本調査」（2016年）、「子どもの生活と学び」研究プロジェクトの質的調査（2016年）など。これまでの主な論文は、「中学生の理科の好みに及ぼす電気学習の影響」（2011年）、「中学校と大学の連携によるエネルギーを題材とした理科学習プログラムの開発」（2011年）など。